

■ 環境問題の解決をサポートします

森林や里山の荒廃、身近な生きものやアユなどの貴重な漁業資源の激減等、地域を取り巻く環境は温暖化といった地球規模の問題とも相まって、これまでにないスピードとスケールで変わりつつあります。

このような中、私たちは1974（昭和49）年の創立以来、水質、生物、生活環境等、地域の環境保全に係る様々な分野について調査・研究を進めてきました。今後も、これまでに培った経験と蓄積してきた基礎データの活用、そして常に新しい技術を追求めながら、自然と人間が共生できる社会の実現に貢献すべく、環境問題全般にかかわる有益な調査の提案ならびにサポートを行っていきたくと考えています。



環境保全をベースとした地域づくり

地域のあるべき姿とは何か。

またその地域が持続的に発展しつつ、森や川や海が、鳥や魚や虫たちがいきいきと暮らせる環境とはどういうものか。

私たちは常にそのことを考え続けてきました。

都市と地方、文化と文明、思想と技術。

人が創り上げたあらゆるものと

人そのものが自然とともに生きていける時と空間。

私たちはそんな地域づくりを夢見ています。



Regional Planning Based on Environmental Conservation

What should the region be?

How can the sustainable development of the region harmonize with a healthy environment?

We have been always thinking about that.

City and country, culture and civilization, idea and technique, human creation and nature: it is the regional development of our dreams.

株式会社 西日本科学技術研究所
Nishinohon Institute of Technology

〒781-0812 高知市若松町9番30号
TEL : 088-884-5151 / FAX : 088-884-5160
<https://www.ule.co.jp/business/research-department>
E-mail : nit@ule.co.jp



HP

環境を守るという仕事

株式会社 西日本科学技術研究所
調査部門

Nishinohon Institute of Technology
Research Section



■ 環境調査の対象（領域）

陸上の動植物や水生生物、水・土壌の化学分析のほか、生活環境に係る大気・騒音振動等、森〜里〜川〜海〜まちのつながりを重視しながら様々な環境（生態系）を対象として調査分析を実施します。この結果、得られたデータをもとに、対策の必要性や環境保全に向けた提案、関連計画の策定等について検討します。また、魚類等の水生生物や河岸植物のデータは、当社が進める近自然河川工法を行う際の現状把握及び工事後の効果検証等に活用しています。

これら各種調査については、大学などの研究機関や学識経験者の指導も受けながら進めています。

森の視点

森を構成する植物やそこに生息する動物を調査することで、森の公益的機能や生物多様性について評価し、整備や維持管理、利活用に関する計画や対策を立案します。

里の視点

里地里山に生息・生育する動植物と農林業などの人々の営みとの関係について把握し、地域や自然環境、景観の持続的な保全に関する計画や対策を立案します。

川の視点

河川やダム湖において、水質分析や生物調査を行い、それらの現状を把握するとともに、健全な河川環境の回復・維持に向けた提案を行います。

海の視点

沿岸域を中心とした海域において、生物調査や水質調査を行い、それらの生息実態や環境を把握することで、水産資源等の保護や増殖に向けた提案を行います。

まちの視点

人間活動により発生する騒音や振動のほか、大気環境や日照障害等について関連法規に基づき調査し、人々の暮らしや自然環境への影響を評価して適切な対策を提案します。

生態系の視点

多種多様な生きものやそれらを取り巻く環境によって成立している生態系に着目し、各生物間の相互関係や人間生活が及ぼす影響を解明します。

植物調査

Plants research

植物相調査、植生調査（植生図の作成等）
希少植物の調査・保全対策
動物による植生の被害の把握や再生状況のモニタリング
地域の生態系・景観に配慮した緑化計画
森林・溪流環境、里山の保全・活用に係る調査、提案、計画策定



森林、草地、河川、海岸、湿地等、様々なフィールドを対象に調査を行います。

これまでに移植によって保全を行った植物は森林生、草地生、水生植物と多岐にわたります。

陸上動物調査

Land animals research

両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類・昆虫類の生息状況調査
希少動物の調査、保全対策
地域で親しまれている動物（野鳥、ホタル等）の生息環境保全・創出に関する調査・提案
ほ場整備等に伴う環境調査、生きものに配慮した計画の提案
鳥獣保護・管理に関する調査



昆虫類は捕虫網や叩き網、落とし穴、灯火採集等、各種の生態に応じた方法で採集します。

ニホンジカ等、中〜大型哺乳類の生息状況は、このような自動撮影写真の分析等をもとに把握します。

水生生物調査

Aquatics research

魚類、底生動物、動植物プランクトン、付着藻類の生息・生育状況調査
アユ生態調査（産卵・流下・海域生活・遡上期調査等）
水産資源調査（アユ・ウナギ・テナガエビ・モクズガニ・スジアオノリ等）
希少水生生物の生息実態調査（トビハゼ・アカメ・シオマネキ等）
各種事業による水生生物への影響調査
水生生物保全対策の効果判定調査
付着藻類相・底生動物相による水質評価



定量採集と定性採集により底生動物（水生昆虫等）を採集します。

投網や刺網のほか数種類の漁具・漁法により魚類を採集します。

水質・底質調査

Water quality research

河川、ダム貯水池、海域等における調査（水質、底質等）
河口域における塩水遡上調査
河川、ダム貯水池における汚濁負荷調査（濁質、生活排水等）
各種事業に伴う地下水及び周辺井戸への影響調査（農業、水産資源等）
事業所排水分析
建設発生土（残土）分析
土壌等の粒度分布測定
肥料成分分析



採水・採泥器等を使用して試料を採取します。また、機器を用いて水温や濁度等の現地観測を行います。

採取した試料は早急に分析を行い、水質の実態を把握します。

生活環境調査

Living environment research

交通環境整備における基礎資料作成（交通事故統計）
道路環境に係る調査（交通量、渋滞状況、騒音、振動等）
各種事業に伴う騒音・振動、粉塵等への影響調査
照明施設の漏れ光の生活環境や動植物等への影響調査



道路計画や維持管理に必要な自動車の交通量や自動車交通騒音・振動等を把握します。

工事に際して発生した粉塵が周辺の施設園芸に与える影響を分析・評価します。